

題名 15歳の手の甲 A組 1番 氏名
 大人に描法のやり方は違ったけれど、それを聞いて。
 たくましく成長した様に見える、少しが弱いところを
 シャープペンシルの細で、濃淡をつけて表現して。
 さらに、たくましく見せられるように手を広げて、
 なるべくワケ々に大きく描いた。手の甲の7割
 細部に描いていないのは、自由な線を表現するため
 に白色の部分をもとの色に塗り入れた。



私と美術 A組 1番 氏名
 美術の勉強では和紙の透水性を学び、美術は素人だと
 思っていたが、この美術が成長のきっかけとなり、それ以来、美術の勉強
 と美術との関係に興味をもち、和紙の
 透水性の技法を学習し、和紙の透水性を学び、
 美術の勉強では和紙を学び、和紙の透水性を学び、技法を
 学ぶのは、どうやって、どうやって、和紙の透水性を
 学ぶのか、どうやって、和紙の透水性を学ぶのか。

題「
名 下の子」 A組 2番 氏名

母の身が今更に中学校生活で築いた基礎で、奥の身が
を交えている。奥の身は、今更に何かを掴ましている姿の虚像
で、自分自身の象徴として、何か高校に行き、高校への
中学校で学んだことを覚えている。何か高校に行き、高校への
難しさを、両手を合わせて、時に涙を流し、右の手が
いととどまらないう。

私と美術

A組 2番 氏名

中学校に入るとは目黒工作が美術の技術として分かる思い
美術の事は、大抵おもしろくない。得意でないから、
と美術を学んで、大抵おもしろくない。得意でないから、
今更に、と美術は、大抵おもしろくない。得意でないから、
美術は、大抵おもしろくない。得意でないから、
美術は、大抵おもしろくない。得意でないから、
美術は、大抵おもしろくない。得意でないから、



15の夢

A組3番氏名

自分が書いたこの手は「男」というものを強調して描いた手です。手の形はよくピストルの真似火をしていて形の手です。これは、ピストルが鳴る→スタートです。だから、ここからの始まり。また走り出すというものがイメージできるように描きました。ここからの人生=夢に向かっ走り出すとい、たイメージです。もう一つは手のりんがは力強く描きました。自分を描いていっつもりんがは強く描く前後では全然異なっていて、「男の力強い」というものを表現できたと思います。

私と美術

A組3番氏名

自分は美術の学習を通して、テクニックをけはなく、作品の美しさや、作品にこめられた気持ちを小学生のころと比べて自分でもすこしく感じることができ、それを文章に表現することができるようになれたと思います。そしてテクニックを学ぶことができた新しいテクニックで、自分の思いを表現できたと思います。自分が考えて、作品を作ること、鑑賞すること以上に大きな意味があると思います。それは美術が、自分を表現することから始まったと思います。誰かが作品を作らなければ、誰かが作品を鑑賞することはありません。自分は3年間を通してそれに気付くこともできました。



① じゅけい

1 A組 4番 氏名

自分の手の様子を描き表現したもので左利き
3つ描いた。1-1の利き手角度を変えている。
1-2は右上から右上、1-3は左上から見ている
視点で手のひら、指甲、指の表裏を表現
している。最も上手いのは指の「ライン」位置
向き等を調節するため何度か描き直した。



私と美術

1組 4番 氏名

私の周りにはいろいろな人が美術が好きで、私もその一人です。
好きで、そして他人の作品も好きで、自分の作品でも好きで、
技術を習った人も、TVで見た人も、それらが「見られた」
瞬間で美術を学ぶ。これらの効果や情報の工夫は好きで、
無意識に、それらが制作などを得られ、私の周りの
ものに自分も変われたと思える。

共に出した15年

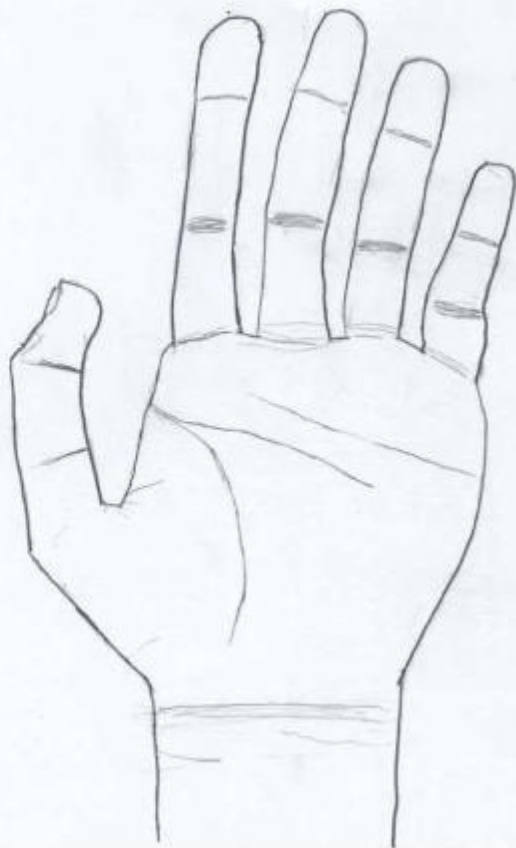
A組5冊 58

持ったことのない工夫はないか、今年もありがとうという気持ち
をこめて書いてみました。思えばこの15年、常にほくのために働き
続け、今こうして文を書いているのも手のおかげです。

私と美術

A組5冊 58

美術はほくの世界を広げてくれました。美術はほくの心を豊
かにしてくれました。美術はほくの楽しみを増やしてくれました。
ほくが美術からもらったものはたくさんあります。
中学一年生の時より今の方が美術に対する思いが113113
と変わ、大よむ言ひしまゝ今でも苦手教科なのは変わ
りませんが美術が好きになったよな気持ちは、
どいつも名前が忘れたけれど、ほくの理想の部屋を立体的
に書く授業はとても楽しかった。たゞ「なれをおこす」いや、こ
もおきたらなどということはおこなった授業でした。そ
うして、
美術はほくを豊かにしてくれました。



18 初めにある大人の世界 , A組 6番 氏也
 手は今の書き方から7番まで17-3の7-2でC指とD指とE指と
 6番に1つだけした。
 手は18番から書くYの字がイヤーでイヤーでイヤーでイヤーでイヤーの
 7-3-2の7の字のりして書くYに1つだけした。
 30-1の指の字と大人の世界を日付して1つする。

私と美術 A組 6番 氏也
 私は美術科の1-1-1の目録に「美術科とは何ぞい」ということを
 知りました。手。
 中では美術科の1-1-1の目録に「美術科とは何ぞい」ということを
 知りました。手。



題「世界を一つに」 A 冊 7 冊 58
今、世界の国の中でも差は大きくある。
その差をなくすの世帯しいが、この手の冊子
みんなで作って「世界を一つに」という目標のもと
各国が努力、協力していくという思い。
特に、指先から出ている光が世界人々を優しく解きほぐし
温まるような光という意味。

私と美術

A 冊 9 冊 88

3年間、美術という授業しかなくて、一本の文化は
なかった。風景を見て、考えたりと、意外と良い所を
見つけようになつたこと。
小学生のころは、絵の具を見て、さしつかえなく
それ以外のことを教えたことはなかった。
中学生になると、鑑賞のポイントを学ぶ、日常生活の中
に活かすことが、増えた。



題名 死線の蒼 A 組 氏名

描いてお身でつか、文士のEVA 見てお身でつかい、
 わかち手間はかかおつかい、Don't know かわち手間はかか
 見てお身でつかい、互にの夢と手間はかか、かわち手間は
 見てお身でつかい、
 手間はかか、かわち手間はかか、かわち手間はかか、
 見てお身でつかい、
 かわち手間はかか、かわち手間はかか、かわち手間はかか、

私と美術 A 組 氏名

私は今年美術科に入学して、色々なことを学び、
 一つは、自分の色で描くこと、そして、自分の個性を表現すること、
 一つは、自分の色で描くこと、そして、自分の個性を表現すること、
 一つは、自分の色で描くこと、そして、自分の個性を表現すること、
 一つは、自分の色で描くこと、そして、自分の個性を表現すること、
 一つは、自分の色で描くこと、そして、自分の個性を表現すること、
 一つは、自分の色で描くこと、そして、自分の個性を表現すること、
 一つは、自分の色で描くこと、そして、自分の個性を表現すること、



題名	「箸の美学」	A組 9番 氏名
<p>この箸は人の活動の場である生活の場である箸の役割をわかったものである。しかし箸という箸は、その生活の場という「箸」への関心から様々な箸、食品容器や生活の場の中での箸の品物も多岐にわたる。これは箸の進化の歴史であり、この人々の生活も世界は変わって来た。そして、箸は文化の進化の歴史でもある。この箸の歴史を知ることが、箸の歴史を知ることに繋がっている。そして、箸の歴史を知ることは、箸の歴史を知ることに繋がっている。そして、箸の歴史を知ることは、箸の歴史を知ることに繋がっている。</p>		



題名	「私と美術」	A組 9番 氏名
<p>美術という一見つまらない科目が、私には大切な存在だ。小学5年生の時、たまたま学校の授業で美術の授業があった。その授業で、先生は「美術は心を豊かにするものだ」と教えてくれた。その言葉が、私の心に残った。それ以来、私は美術の授業をとても楽しみにしている。美術は、私にとって大切な存在だ。それは、私にとっての心の居場所だからだ。そして、美術は、私にとっての心の居場所だからだ。そして、美術は、私にとっての心の居場所だからだ。</p>		

ともたす A 10 氏名
 たた 人差し指をたたくてはいるのではなくともたす
 みたいな協力。固結して土にのびていこうという
 思いでフクリした。また 親指を下にでま
 かけを鉛筆をよこにたたく。フクリ最後にゆ
 べにす工夫もしました。



私と美術 A 10 氏名
 3年間、美術を学ぶことで、色や切りや、自分の身持
 を形にするこのむすかじをわくわく知ることから、
 色はカラーのまじり色でつなぐ、いろいろな色をま
 てつくるこの大切さをわすれしさをわかったこと、筋
 の表現力が着にくらべ、のむかじと思う、また
 自分表現のこのたのしみ味あうことができ
 た。そして、この3年間美術を学んで、美術に
 たより身持は変化して思う、喜び、また、思
 いた、形をそのまま表現した、人の作品と同じよう
 のやつき、いいか、いい、学ぶ、中で、美術は
 自分の考えをいっしょ考え、自分なりの作品を作
 った。また、自分の身持が、形になった、また、又、
 けにたす、かたす。

「普段の手」 A 11 11 11

題名の通り、いつも自分が字を書いたり、TVを見たり、
食事をしたり…あの時の左手である。
特に意識せず、力をぬいている。つまり
「ありのまま」の状態である。
当初の予定では中丁の時のように、ボールを握っているか
にしようとも考えたが、自然感、真の自分の手とは違
い、スクッチした。
実に特徴のなり、絵。いや、そうは見えない。
いつもの自分の手、そんな意識しているだろうが。
ありのままの自分、そして手。そういうものを見つめて
みる、ということ、なんて素晴らしいことだろう。

私と美術 A 11 11 11

「この世に、たか、先生が、身近にあるものに、美術が
ある」と言った、小うな言葉がある。
たか、いつも何気なく見たり触れたりしている物の中
に、美術の勉強が関係しているんだぞ、それを
意識してみよう、…。そういうことだろうか？
僕は、この言葉の本当の意味、それは
「いつも何気なく見たり触れたりしている物を
美術と感じられるようになる」ということ
である。
3年間の美術の授業を通して、その力を
身に付けたと思う。素晴らしい授業を提供して
いただき、先生方、および、研習生の方々に心から
感謝いたします。
と、3年間で述べた「身近なものに美術が…」なんて
ことを、先生が本当に思ったか、は、確かではないが、不
知のや、おもいません。もしそうなら、ここで述べたのは、自論のたか



題名

ウインク

A組 10番 氏名

今は流行のしてゐないウインクをかいた。
 ウインクの形にすると所々にくぼみや曲がるなど
 肉皮が手につくのや柔くのはゆがすかした。
 難しかった所は、歯をまげアリの所と、親指の形と
 小指のゆがまがてゐる所です。あと、指はまっすぐ
 ではなくて、多少ずぶつがあるのをそれを表現
 するのをますかした。あと軽くほがしてみ
 ました。

私と美術

A組 10番 氏名

美術は僕に美術好きは早く、書き方、ぬり方、
 つくり方、技術的なこと、描くための具材、
 あるたのやうにするための想像力、絵の精神的な
 ことも教へてもらった。他にも美術からは美術に
 関することではないものもたくさん学んだ。
 こんな風に、このことから多方向多方向のことで
 たくさん学べるのはすばらしいことだと
 おもう。これがらも美術のおなじみらしい
 関係を、強く持つ、大きな人間になりたい。



「多連ヒテニス

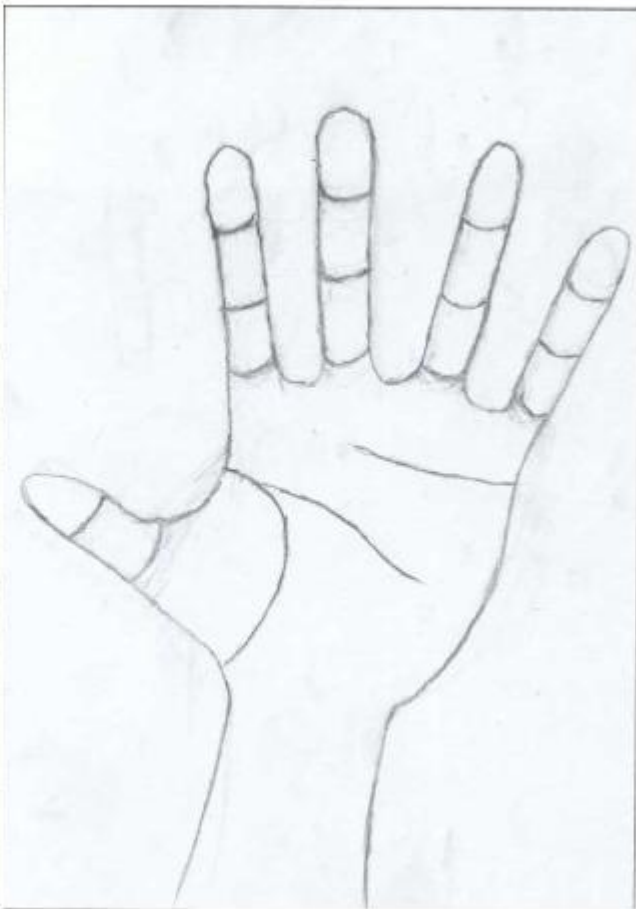
A 13 日 日

はくはソフトテニス部に所属していました。そして、多連ヒテニスを楽しくしているところを参考にしようと思います。
はくは部活で、テニスに関する技術はもうろくのこと、精神面でも成長しました。また、部活を通して、良い友達を作ることかてしました。はくはこの二つのことを、与えてくれた部活に感謝し、作品にしようと思います。また特にテニスをしているところを参考にすべくのはなく、人間と自然を対比させたり、はくたち中学生にはまたまた長い人生がある人たということを感じさせたりするような作品にしていこうと思います。またすと友達のすはらしさを伝えようと思います。

私と美術

A 13 日 日

はくが美術部の時間では一番印象に残っていることは、2年生の時たやった金属ちゅう造です。小学生のときの技術ではやったことがなくて、初めての経験とてとても楽しく、こんな作りもあるんだなと思ったり驚いたりして、しかし、自分の描いてきたような作品を作ることではできません。はくは美術部があまり得意ではありませんが、美術部は部活に出ているためには必要なものだと思います。美術部は、今までできなかった自分の世界を無限に広げ、様々なものに目を向けさせてくれるものだと思います。また、過去の偉人たちの作品を観ることで、自分たちの人生の教訓にたえるようなことも学べると思います。これから「自分と美術部の関係」を深めていこうと思います。



8 この手がつかせモノ : A 14 冊 31

これは自分の手がつかせ何かをモチーフにしてつくり
ました。そのつかせものが光輝く何かであるようにイメ
ージさせることが大切だと思い黄色をつくりたそうと努
めました。

今までの人々との出会いや別れ、そしてこれからの
出会い別れをイメージさせるよう遠近法を用いて
みました。人々は遠くでイメージさせることにしました

私と美術

A 14 冊 32

美術が一番興味深かったのは要するにそのセンスが
アイディアだといくうでも表現が多用になり、
美しく見えるからです。僕は最初美術についてのイメ
ージはあんまりくさいにしていたのが、これ「これはこ
るほど味がするもの」という風に変わったと思います。
美術での学びを通してものへの価値観が変化したこと
が一番大きいと思います。

例えば、今まで甘さを感じたことしか思っていたタイ
フの色、グリーンの効果で悲しみにあふれた色を見
入ったりすることがあります。

美術に一番必要なのはセンスではなく楽しむう
とする心意気だと思っています。だから僕もこれから
より美術を楽しみたいと思っています。



「何気なく眺めるいつもの手」 A組15番 氏名

ふと手をながめてみた時、僕は思いました。自分の手って、このように なっていたのか。と。そんな何気ない手を眺めることができるという幸せを実感しながら、この手を描きました。「幸せ」とは、傷ついた手でなく、ありのままの自分の手を見ることができるということです。世界には、地雷などによって手足を失って、もう二度と手足を見るということができない人がたくさんいます。自分は手足を持っていて、そのままの自分の手を見ることができ、とても幸せに思います。

私と美術 A組15番 氏名

3年間を通して、「美術の楽しさ」や「美術の面白さ」を改めて実感できたような気がする。中1の時、「美術」って、どんなことをするのだろう。小学校の時の図画工作とどこがどんな風に違うのだろう。と考えたことがある。でも、その違いを3年間の学びを通して分かったような気がする。「美術」は、本格的な「美」を追求する場であり、図画工作はその準備段階であったのだ。実際僕は、絵が上手に描けるとか、美的センスがあるといったようなそんな才能は持っていない。しかし、僕は「美」とは才能のあるなしで決まってくるものではないと思っている。一人一人が一生懸命「美術」という教科に取りくんで、自分なりの作品を作り上げた証こそが、「美」であるのではないかと思っている。そして僕はこの3年間を通じて「美」を追求でき、「美術」に対する気持ちや見方が変化したのではないかと感じている。



題名 両手 A18 冊数

これは日本の両手を描きました。
何かやわらかい物をもっている状態で描きました。
何かなめにならうに筆を付けた。

私と美術

A16 冊数

僕はこの3年間の美術の授業を受けて
美術の授業の大切さがよく分りました。
美術の授業は将来仕事に必要かたしおれ、ので
しっかり学べてよかったです。



題「ワイルドな15歳」 A組19番 氏名
題命にあるおりにワイルド感のある15歳の手にしてみました。
ワイルドの中に隠れさせていたとけいさの表現しました。

私と美術

A組19番 氏名

小学生の時絵を畫いたり物を作る時は何も考えずに、
たけと紙で「アイ・ア・スチ」^{アイ・ア・スチ}といふのを習ひました。今までは作品
を作る前の所で「時間か時間か時間をかける」といふ事がなから
ので中学に入つて3年間自分なりの表現をも深くまで追ますることが
できたと思ひます。この期間で美術は自分にとって、かけがえのな
い物になります。大人になつても美術を趣味として生きていきたい



半開き

A 期 20 頁 共名

15歳といったら人生でいえばまだ半開き段階だと思えます。そして今までに描いたことのない手の形に挑戦してみたかったので描きました。な、何かを求め掴むとしているようにみえるので、自分の気持ちにもびたりたと思えました。工夫した点は、右利きで右手で絵を描くのに、左で右手を描いたとことです。見ながら描くというのでできないので難しいと思えます。写真で撮っていたのでやりません

私と美術

A 期 20 頁 共名

僕と美術との関係はあまりよそのではありませんでした。僕はやることかありと森く、時間的な作品としてあげることかほほ"でき分かったからです。だから、僕はいつか美術に対して苦み意識をもてました。たまた、好きかどうかといえは好きでした。絵を描くことか好きだ。いろいろな技法なと興味かあり、とそまことかできました。だから、時間制限なかつた身体か入宿題はそれほど苦しくはなかつたです。つまり、僕と美術との関係は、良くはないけど、それほど悪いわけでもないといった感じでした。



題名 夢をつかむ) A組 2番 氏名

「自分の夢をつかむ」という思いを込めた。でもまた自分の夢を探しているというのを表現したかったので少し手を小さめにひらき、ちよっとたよりない感じを出した。また夢を探しているというのは私のイメージではまた「かみ」というイメージなので自ヤほやけた黒(描いた後ニツク)を基本の色にして、下にかげをつけり(くはさき)にほやけた感じを出した。指先は全部同じ方向ではなくはらばらの方向に向けて描くようにした。

私と美術) A組 2番 氏名

美術では3年間で同系色、対比する色を使う効果、色彩、彩度、グラデーション、ドローイングなど絵を描いたり鑑賞するのに必要なことを学習した。2年生の夏休みに県立美術館に職業調べで行った時、5歳のピカソ展をやっていたのを見て行った。ピカソの絵を見ていて、自分の中でこれはバランスがいい。とかこの絵は同系色で描いている。とか今までに学習した事を知らない内に使った鑑賞していた。授業で特に印象深かったのは「陰と影」のところで、コップなど陰と影をつけるだけでこんなに立体感がでてきたと驚いた。あと、二点透視図法や一点透視図法では線をかくだけであまり立体感がでて、自分がその絵の中に立っている感じがして不思議だった。



自分の手はこの15年間いろいろなことを書いてりしてしてきました。なので附申の思い出や将来の夢、高校のことを文字で手のなかに書きました。その一つが自分の「ま」になっている。また思い出一つが「自分」になっている。ということも表現しました。また、自分はたった1色で表せるものではないと思いいこの5色を選びました。夢につながる手、ということと、重色の絵の具のチューブから手が出ているようにしました。

私と美術

附中での3年間の美術の授業を通していろいろなことを学んだり知ることができました。その一つが、机達の生活の中に「美術」はたくさんあるということです。文具一つをとってしてもデザインの工夫がされています。広い視野を持って生活すること私たちのくらしの中には美術とあふれていることを知りました。2つめは、自分の気持ちを表現する方法の工夫のしかたです。1年生ではアクリル絵の具を使い、重色やにじみ、ドライマッシュなどの技法を学び、絵の具を使う時の表現の幅が広がったと思います。2年生では陰影などを学び、明暗の差を描くことができるようになり、絵などに奥行きができたと思います。3年生では立体の物をつくるようになり、今までのことを生かして作れるようになり、と思います。いろいろな技法を学ぶことで表現の幅が広がることで美術で表現することがとんとん楽しくなりました。美術の授業で学んだことを生活の中に生かしていきたいと思っています。



題「生命」 A面 23歳 女性

力強い手で、附年の3年間の生活で得たたいへんものを誇りに思っている様子が見えた。それから自信になっている。これらの人生を見据え、しっかりと前を向いている。しかし、生かされた数多くなり、今まで忘れているからが血なで、涙も出た。それは決して忘れることこそができなかった。

たいへんものを得て、それ同じ数だけ失ってきたから... 寂しくもあり、苦しくもあり、胸中での3年間の経緯にいた。

私と美術 A面 23歳 女性

私は中学校に入るまでは美術が嫌いだった。絵を描くのも工作も苦手だったから。小学校では、絵を描く、物をつくるのが好きだったから、美術は少ない時間だった。でも、中学校の美術では、描くだけでなく、色やカタチが人間に与える感情や、人類の発展に美術が深く関係していることを知り、美術が大好きになった。特に、黄金比や自然などがおもしろかった。美術の授業で習ったことは私の生活にとても役立っていて、今ではなくてはならないものになっている。アスターをみたときには、作者の意図や伝えたいことが何となくわかる気がしておもしろい。また、季節によって、部屋に置く物の色やカタチもまたかっこよく感じる気がした。(青→涼しい、赤→暖かい)などを感じることを知った。人間はなぜそのような感じるのか知りたくなった。



得たもの A 組 4 月 28 日
 附属中学校での3年間、楽しいこともあった、
 こともあれば、辛いこともありました。
 そのために、今は自分なりの大きな力となり
 ました。それを表現したのがこの作品です。
 多くの経験で得たものが私の心へ流れています。
 そんな風にまとまりませんが、心と愛を込めて
 描きました。どんなことにも負けず、強い
 気持ちで表現したいと思ったので、エナメル絵の具と油絵の
 具です。
 その力はこれから私にもつたが、これと違うATと
 流れています。

私と美術 A 組 29 日 20 日
 私はこの3年間で表現する事の大切さを知りました。
 頭のなかには表現はあってもうまく表現できず言葉に
 できなかった。色と書きさでよく分かるようになった。
 そんなとき、絵にして形にして...と表現する事で
 整理ができます。
 表現して行くにつれ、こんなことをしてみよう、と決まると
 アタマがうかんでくるようになりました。アタマ
 スクイズかごね、構図を決めて行くうちに、今の自分に
 して一番良かったことが分かるようになりました。
 1年生のときは、つらかりたりするものが不安で、恥ず
 かしかった。でも今はまわりの様子をうかがわなく
 ても自分のやりたいことに気が、表現が楽しく
 になりました。これも3年間の美術のおかげです。
 夢をまはは絵をかいて行くような、工作をして行くような
 ふしぎな感覚です。だからこの3年間で「学んだ」こと
 ばかりで「私と美術」を表現したいです。



題「1818を生きていく」 A組25番 美術

私は新聞を使、工作しました。その出来事が書いてある新聞に
 今回の15年間とこれから重ね合わせようと考えたからです。その人が
 好きで生きていくな。いろいろの使、たのはスポーツ面です。それなら
 たくさん人のスポーツが入るよになりました。これから人生、たくさんスポ
 ーツをや、てみる、楽しんでいきたい。いろんなことに挑戦したいと思
 いからです。工夫したことは、新聞にしを付けてから貼る。貼る
 ことです。手のあたりに感じ、肌にありがあせたりで良かったと思
 います。また少し立体感を出すために少し重なり貼りました。新聞
 を貼る前には、1年生の時に習、た簡単な形をうまくに手を添
 ぐこともし、きちんと形を決めてから取りかかると決まりました。

私と美術 A組25番 美術

私が一番印象深い学習は、1年生の時に木を貼、た作品を作
 ったことです。私はバスケットを作りました。木のあたりにみを生かして作ること
 ができました。他にも、色や線の真の塗り方、グラデーションやピレ
 ーションなどの技法、スケッチの仕方、などを学び、それを生かしていろいろな
 作品を作ることができました。また、アクリルスケッチの大きさも分かるよにな
 りました。

美術は、自分を見つめ直し、未来へつなげていく教科だと思、ます。
 自分の中にあったもの、自分も気づいていないものを外へ出して表すのは難
 しいことだけど、中学校3年間の美術の学びを通して、少しずつ気づか
 なくなりました。形にこだわることも取、つあけるので、自分の成長も感じれ
 ると思、ます。美術は、強も描いた、何かが作、た、何かが作、た、何かが作、た、何
 が分かる、最後の方ほどは、とても楽しくなりました。

高校生にな、て美術の授業は、量は少ないけれども、美術は、授
 業だけでなく、生活にたくさんあ、りか、りと思、います。いまでも、美しい
 と思、える心で、自分の表したいことを、色で表現、できることを忘、れな、い、たい
 と思、います。



題「ピース」

A組 26番 氏名

ピースは、私が1番好きな手の形です。ピースをすると、なぜか優しくなまし、友達に向けピースをすると、顔ほほしくなり
 と思います。ですから、その元気づけとくせえ手を養いたい
 と思いました。それをするために、乾の具やおりがみを使、アバク
 染りするのではなく、色えんぴつを使って、やわらかさをほせ
 するようにしました。また、手の輪郭は少し濃くして手の力強さを
 表せるようにしました。また、手の色を薄くしたのは、今と同じ
 ように、大人になっても汚れた手にならないようにしたいという願
 いからです。また、背景を黄色、ほのかにさせることで、手が輝い
 ているように見せたと、ぼやけようにふたしました。1年生の
 時より、穏やかに見える手を目指して描きました。

私と美術

A組 26番 氏名

私は、絵を描くことがとても苦手なりで、美術は苦手になる
 し嫌にやると思っていました。ですが、例え下手だとしても、下手
 なりにできることがあると気づくことができました。また、自分の
 物と作るのが好きで、「ゆめたまご」などは、自分としかつら
 そうと努力しています。また、美術を通して、自分というものを思っ
 め直すことができ、本当の自分というのは何なのだろう、など
 考えるいい機会になりました。また、作品を作ることで、私は
 シンボルが好きだということに気づき、作品を作るときには、
 構想からすごく迷い、テーマプレートでは木をピコピコ光らせた
 くて磨きまくるなど、私はきもちう画だということに気づきました。
 なので、少しは失敗するとその続きをするのが嫌になつたり
 しましたが、それをどうやってかへするのかがということも学ぶこ
 ができました。私にとって美術は、自分というものを気づかせ
 てくれ、また、心から強くなるための手助けをしてくれるものだ
 と思います。まわりにも見る光が大きな自分をはたすことも知、た
 んア、もっと周りにいるものに目を向けたいと思います。



題「 夢あふれる手」	A組 巧田 氏名
<p> やりだしたことがたまたまあって、目奥の中でのいろいろなことを思い描き、それを自分の手とかがさあわせて表現しました。 「夢」を表現して「DREAM」を一番外側に描きました。 そして、手の中心には温かい色で太陽の光を描きました。 色に負けないように、土佐の手を強調するために「DREAM」の文字を塗りまわす（ペンキは付かない）ようにしました。 シンプルでも、インパクトを与えられるように、色を塗りかき中心から外側の虹色円を描くように工夫しました。 手にはあえて土佐の土を入れた。色をあざやかに見せようとした。 </p>	
私と美術	A組 巧田 氏名

ちとちと、工作や絵をがけたりすることが好きでした。
 しかし、中学校の美術を学習するまで、フクロペンでなく、
 「見る」として大切さを学ばない。
 何の作品も「鑑賞」するに気がおきず、得意の「描く」に
 美術鑑賞に行っても、それを見ればそれか、と「普通」な
 うらやまを感じた。
 中学校の美術で「鑑賞」をしたとき、じっくり見ることでその作品の
 水戸人の思いや表現技法、材料など、様々なことを
 自然と学ぶことができた。作品の「うらやま」が「見る」ことで
 広がることを学ばれた。
 これは、私にとってとても大きな収穫でした。
 自分の作品だけでなく、他人の作品も見るし、個性の大切さを
 知ることもできた。
 「鑑賞」するということも、知ることもできた。



題「手の平の虹色」 Am 280 280
 自分にとって、手の平を聞いたポーズが、著自
 然だ。なので、こゝにした。
 また、自分のこゝからの可能性を表現、探た
 めに、色々な色を強調した。
 指先から、手の平にかけてのグーテンベルグの
 ポイントだ。



私と美術 Am 280 280
 中学に入塾した最初の頃は、美術とは図画工作の延長
 線上にあると思っていた。確かにそういう事象も
 あるのだが、本質的には別物だ」と考えおこなうに
 した。図画工作——図工とは、文字通り絵を描いた
 人物を制作したりして、作品を完成させてそのための
 しい美術はそれとは違う。美術とは、自分の奥深く
 にある感性を探り出す、それを表現することにな
 ってきた。よって、図画や工作の技術はとて大分
 が、あくまでそれは、自己表現のための一つの手段
 にすぎない。もちろん、図画や工作という「過程」を
 おおらかにすれば、自己表現などではない。しかし、
 自己表現という目標がなければ、いくら「過程」を
 大切にしてもそれはただの「物作り」に終わってしま
 う。私たちが、絵を描くために絵を描くというのはい
 ない。自己表現——それが美術だ。私が自己を探
 る過程であり、美術はいつも私の隣りにいてくれた。

第1
名

カ

A組 29番 氏名

右側の黒いところが少しグラデーションになって
いるところを補強したい。
手ということでダグノ技法を効果的に使いたい。
あと、Hの鉛筆と4Bの鉛筆の2つを使いわけて
ほしい。

私と美術

A組 29番 氏名

私は3年間美術を学んできて、想像力をとても
豊かにすることができたと思います。
どんな感じの作品しようかとアイデアスケッチで
いろんなパターンを作ってみて、より深いところまで
掘り下すことができ、それがまた自分の力にもな
っていると思います。私の中心は、他の方々制作が
得意に残り、自分の構造などについて自分から
なにかについて、構造を理解し、その上で制作する
ことができれば、美術は身がまわりの溢れしま
す。何か物を作ろうとしても必ず、美術と関係が
あると私は思います。美術という考えなしの物が
作れるとは思いません。色についてもその時の心がま
したとされていると思います。私は美術とは自分の内
側を表現するものだと思います。



題名	未来へ	A組30番 共2
<p>明るい未来がいと恋しいので、周りには、黄色や赤などの明るい色にした。手の青色や、緑色は、私の今の気持ちを表している。受験勉強で大変な気持ちを青色で、でもがんばるぞという気持ちを緑色で表した。おのれにだけは、人さし指は未来を指しているが、強引すぎるために指の先だけこぼれにしている。</p> <p>散りはわらわした画用紙は私の思い出やこよからの未来を1つ1つ含んでいる。</p>		
私と美術	A組初番 共2	
<p>私にとって美術とは、やすらぎと手紙とくちくちの存在です。私は幼い頃から絵をかいていました。絵をかいたことが私は大好きです。社会をかくしにけははやく、おれをくくりだすという事は、自分の気持ちを表現できます。美術は文字にけははやく、くちくちの色を使えばできます。</p> <p>こよからも私は美術と今までのような関係でいいです。</p>		

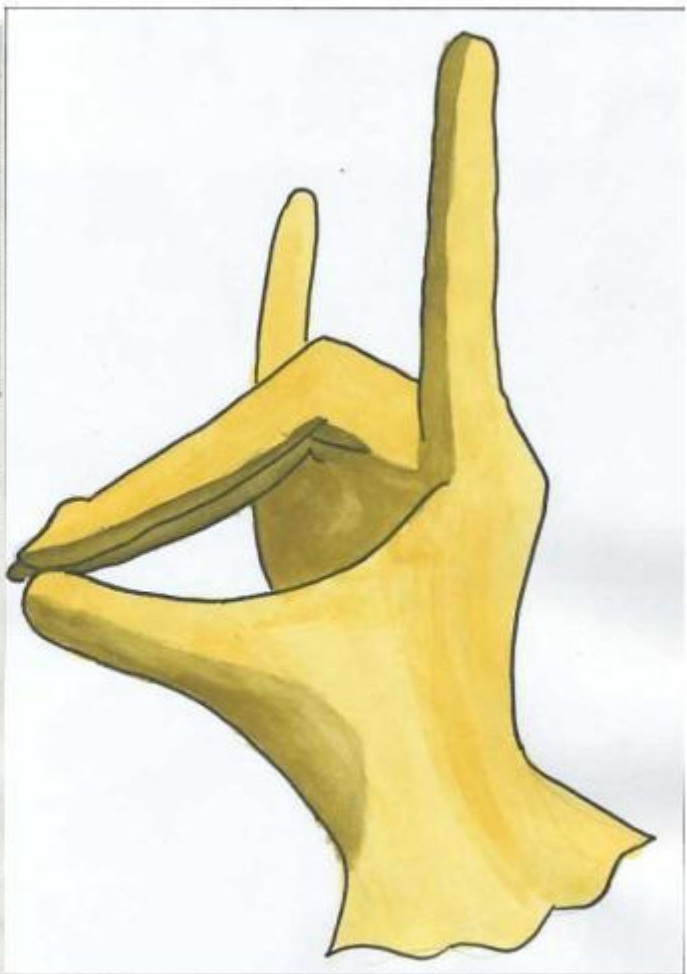


題「キツネにたくして」 月田利雄 氏名

この作品には、私という人間の「手」が入れられた。左手、右手の和、
 過去の私は親指部分です。首の9、親指指環に4本の指に1は、
 「きれいなわ」とか「細長いわ」と言われてきた。それがあふれすぎた、親指は
 けは金魚の口です。ヒコゴロップスでした。7-9の指も手が短く、親指は
 首の2中出しでできた。12-13、もう半分は自分とはながさが、この意味
 も込め、あえて親指としかつ活躍する。この第一にしました。今の私は
 中指部分が表われています。中指にある大きなバネは、この中学3年間の
 の勉強に刺さる種族を示しています。これがこの手はゴングレックス
 したが、今は「語り」です。そして、最後にキツネの、手はこの指と
 表われています。行軍の軍である偉業は、手は4年に、手越いでキツネを吐く
 時のことを思い出して、指さす。また、色は「暖かいあたたかな手」を表わして

私と美術 月田利雄 氏名

入学当初の私は、和子「作品を鑑賞する」ということが、ヒクヒク
 とか、その分の楽しんでいた。どうして、鑑賞するのうと、自分の
 作品と比べて、上手か下手かを見るに専念してしまっていた。その
 せいであつた。自分の作品と美に見られたい。自分が自分の作品に
 対して、悪口を言われても構はずだった。しかし、1年がたつて、感覚(こ
 い)からい、あつた、あつた(ゴングレ)を強く表現し、それをみんなが
 鑑賞しなかつた。その程に表している感覚を覚えて、この手越筆をした。こ
 う、初めて前に書いたようなことを考え、それからこの作品のせて
 があることができた。「この人は、このうと表現しているから、うとこ
 う感覚を表現している」。この人は、このうと同じ感覚を表現している
 だろうか。私にはあつた物を作っている。うと、このうと見れば、こ
 うして、うと初めて鑑賞する。このうとを感して、うと、
 今の私は、作品を作りたいが学習ではない。と書いています。鑑賞するこ
 とも、うと初めて学習だと思っています。自分から、鑑賞するこに、うと、他
 の人の思いや工夫の中から、自分の表現を費かに、うと、うと、うと、
 うと、うと、自分、①にうと、うと、うと、うと、うと、うと、うと、うと、



題 '今を生きる

A組 22番 氏名

この作品には、「過去があるから今がある。今があるから未来がある。」という思いを強く込めました。私はこの3年間、「今を生きる」ことの大切さを実感しました。一年生二年生の時はとにかく自ら、自分が今をいかに生きたいかという気持ちで、「今を生きる」という意味の「今を生きる」ということになり、自分が現在まで積み重ねてきた努力や経験があるから、今をいかに大切に思っているか、どんなに大切に思っているか、人生は無駄な事ばかりでなく、大切に生きたいと思えるように思っています。私は今を大切に生きたいと思っています。制作上の味は今の気持ちを表して、今と過去を比べていることが、どういふことを表しているかを工夫しました。

私と美術

A組 22番 氏名

小学校の頃は「美術」というものはよく描けたら、うまくなると、それが良いものかと思いませんでした。でも「習字」の制作や「15歳の手」の制作にあたり、うまい下手の基準が変わって思いました。もちろんうまい、まじめに上手に描くことは、それを見る人の第一印象も良いから良いことだけど、本当に良い作品というのは、その人の思いが込められている作品のことだと思いました。たとえそれが「15歳の手」という自分の手を描くテーマとしても、その時の自分の思いがそれと違っていると、違っていると、思いが込められていない作品だと、美術という教科は、その授業の時間に制作したものが必ず後に残ります。それを見たときに感じる思いは同じ「自分でも、違っていると、思いが込められていない作品だと、この3年間をどう思いました。美術は第2の言語です。将来、中学校3年間で作った作品を見たとき、懐かしく思うと同時に過去の自分と語り合っていたいと思います。



『Catching Dream...』 A#33# 16

私には「国公立大学の医学部に進学し、精神科医になる」という夢がある。その夢は今の私、十五歳の私にとってはすごく大きく、かつ難しいこと。でも絶対かなえてやりたい。それを表現した。

『闇の中から、現実世界ではあつくて持つことのできる火を千子ーフに描いた「夢」をつかむ姿』
これこそが今の私。

制作上の工夫はあくまでも手が主役ということ、バランスに気をつけました。あと、グラデーションをしっかりあはれた。

私と美術

A#33# 16

3年間美術を学んできて、気がついたことがある。
それは、美術で表現するものは、自然と自分の心や精神状態までもあらわしてしまうということ。
たとえば将来の自分の部屋を描いたときだって、それぞれが描いたものをみてみると、その人が描いたものにはその人らしさや特別な何かがかかっている。(特別な何かとは、その人の好きなものや、将来の夢に関係するものなど。)
また、今日描いた「十五歳の手」にも、その人特有のものがかかっていると思う。
このように美術では直接表現したものだけを表現しているのではなく、間接的に自分の内なる心をも表現していると思う。
したがって私にとっての美術は、自分を表現するものの一つであり、大好きなものの一つだ。



題「 名 未来へ」	A 熊野 氏 氏
<p>天に向けて、何かをつかろうとしている様子の手と描きました。また、手の青色は「空」、指の銀色の折り紙は「光」をイメージしました。折り紙を切ったのは、独特な味わい「感」が気に入ったからです。</p>	

私と美術	A 熊野 氏 氏
<p>小学生の頃は「美術」に対して「上手い」そうでもない、「アイデア」がわりと多いのが多い。しかし、単純なことが好きで、上手いと思った。しかし、中学生の美術で、色による空間感の変化や、線の色の組み合わせや立体の描き方を学び、「自分でも知識や技能を身につければ自分ができるような表現ができるのだ」と知りました。また、そうやって、好きな作品をいろいろに「上手い」、「どうかな」といった見方はなくなりました。それだけには満足点があり、印象を違えてくれるものがあった。それは、確かにアイデアにしろめさには重要ですが、それ以外の部分で満足せず、多数のものの手を動かすことで、構想し、作品に仕上げたいことも学びました。この3年間、私は美術のおもしろさを感じることができたと思います。これからも、絵や作品を制作する時には楽しんで生かして、自分を表現していきたいと思っています。</p>	



<p>題「私の手」</p> <p>手は生まれてからずっと一緒にいて、 泣いた時も笑ったときもずっと一緒に、 共に成長してきた。 大きくなって手相はかわちけど どれも一緒に成長してきたんだと思う。 星は、希望。 希望に向かって歩いているイメージ。</p>	<p>八組三番 其有</p>
<p>私と美術</p> <p>この中学校生活の3年間、美術の授業を通じて多くの作品を作った。 たくさんのおもしろいことが出来た。 文字や、絵を書かずに色だけで自分を表現したり、感情を表したり。 とても楽しい授業ばかりだった。1人1人の授業が大切でした。 美術の世界は広いな。深いな。と思うこともあった。 言葉でなく絵で作品を何かを伝えることはとてもおもしろいのだと思う。</p>	<p>八組三番 其有</p>



題 向 上 , A 組 37 番 氏 名

手を自分の思いの象徴として描くことにしました。
 手の形は上に伸びていく、成長していくという思いをこめて
 手を広げ、上に伸びる線がわかるように手首を少し縮ました。
 手のふらほ、これからの明るい未来や希望をこめて黄色い色に
 思いを込めて描きました。
 手のながさを青と緑でおたやかに塗ったのは、この3年間で手
 に入れたものや、青春、という時期を表現したかったからです。
 黄と青でコントラストをつけ、手全体がぼやけないうちに
 塗りました。
 手のながさに線のさをつけてさせるのも工夫しました。

私と美術 A 組 37 番 氏 名

3年間美術を通してものを見る目やものをとくりにする
 が培われたと思います。芸術家の作品や友達の作品、ある
 いは普段目にしてるシャープペンシルや建物にはすべてデザイ
 ンがあり、それを作った人の工夫や気持ちを感じてくように
 なりました。また、描く線の色そのまま使わずに自分だけの色を
 つくると、ものをとくるときには形、造形、抽象化、立体化と種
 々な方法があり、自分のつくりたいものに忠実に表現できるよう
 になりました。そこで、私と美術の関係は生きていく上でかせ
 ないものでも、なせなけり、私の身のまわりには必ずもの(美術)があ
 り、私がつくったものも美術だからです。今まで私と美術の
 結びつきが弱かったけれど、美術を学習することでよりいっしょ
 結びつきが強くなりました。これからは美術を学習することで
 よりいっしょ強い関係になると思います。



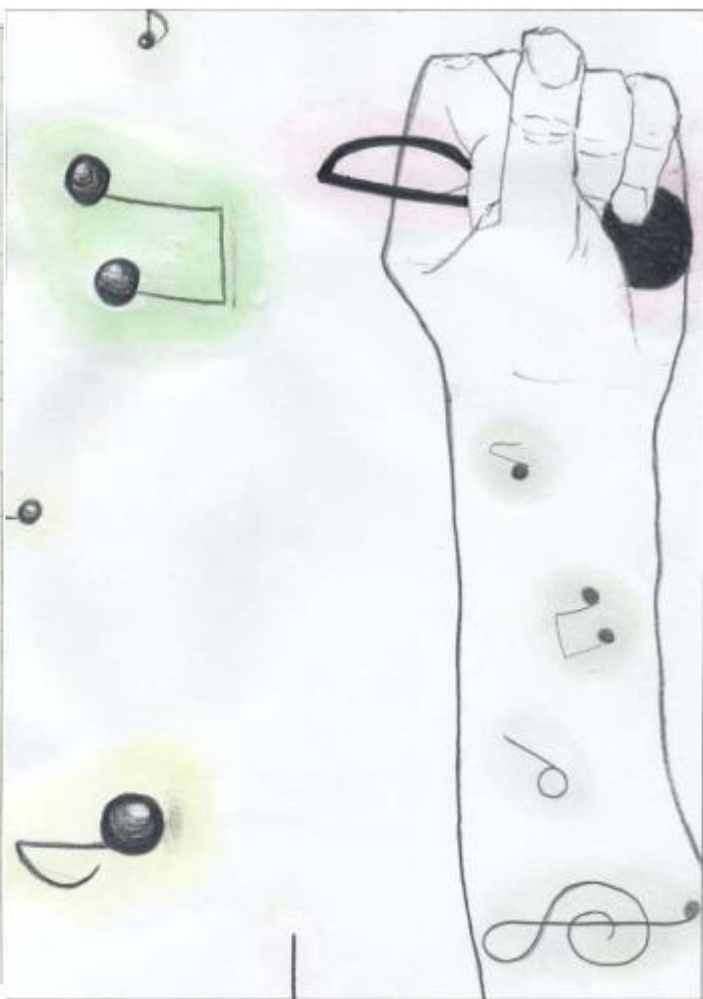
題名 つかむ A組38番 氏名

今までにたくさんのお話を学び、たくさんのお話を自分のものにする事ができました。そして、これから、今までよりも、と多く大きいものをつかんでいきたいです。そのような過去、現在、未来を、音符にたくして表現しました。音楽は無限な感じがあるので、テーマにひたりました。工夫したところは、音符それぞれにあるお話を雰囲気や色に、おおよそに、お話をうまく使って、かわらかい感じが出るように努力したところです。

私と美術

A組39番 氏名

3年間、附中で美術を学び、「美しい」と感じる対象が変化したなと思いました。以前までは、きらんと写生してある絵や単純なグラデーションだけに感動していました。しかし、3年学んだ今では、一見、わけのわからない抽象画でも、そこから見られるテーマが見つかるようになりました。グラデーションとは真反対のコントラストやアクセントも面白いと思うようになりました。これから先の人生でも、固定的な見方で人と接するのではなく、いろいろな人のそれぞれの美しい所を見つけていこう人になりたいです。こんな事を思えるようになったのも、美術を学んだおかげかもしれません。3年間、ありがたございました。



題名	過去、現在、未来へ	氏名	藤原 氏名
<p>一年生の時に描いたスケッチのポーズと、またこの時のものにしようか、同じものにするか迷った。これは、あえて同じポーズのものにした。一年生の時に何度も描いたスケッチ、消しゴムを使ったり、鉛筆の芯を折ったり描いてみた。どの程度練習して描いたのか、このポーズのポーズは、実際に描く、描きやすいポーズにしたり、習ったことをよく生かせるようにポーズを覚えてきたのが良かったが、私は「一つのポーズしか描いていない」と思い、たとえ同じポーズを練習してきたので、今回もこれにした。一年生の時のスケッチは描いておいて、描く時は、なるべく今の自分のポーズ、一つのポーズに集中して描きたいという気持ちで、一年生の頃の成長を表現できるようにした。</p>			

私と美術	A 藤原 氏名
<p>小学生の時から「お絵かき」が好きで、お絵かきをして、絵画の時間を大切にしていた。しかし、中学校に入り、絵画の時間が少なくなった。学校のスケッチに打ち込んで、限られた時間の中で、自分の好きなことに集中して描いていた。</p> <p>自分のやりたい通りに描くことができず、美術の時間や授業は、自分の好きなことを描くことが、作品の見え方をきれいにさせることにつながる。描くだけではなく、作品に自分のアイディアや思い入れを込め、表現する。自分の好きなことを描くことが、一番大切なことだと考えた。</p> <p>美術の授業では、この絵は抽象的だけれど、絵の具や鉛筆の使い方、構図や色遣いなど、自分だけの個性や表現方法があることを感じた。他人には見えなくても、自分だけの個性や表現方法があることを感じた。美術を通して、価値感というものを身につけ、個性というものを、とても大切にできる人間にならなければならない。見ればわかるように、中身の大事な部分を、思い通りに描いた。</p>	

